



第2回

全国高校生

SBP Social
Business
Project

交流フェア

～学生の学生による学生のための祭典～

2017

8.18 (金) 皇學館大学

【会場】

19 (土)

【会場】

外宮前特設会場・皇學館大学
三重県立相可高校
高校生レストラン「まごの店」

報告書

2017年12月

SBPとは

Social Business Project（ソーシャルビジネスプロジェクト）の略で、地域の課題をビジネスの手法を用いて解決していこうという取り組みです。具体的には、高校生が地域資源（ひと、モノ、自然、歴史、名所旧跡、産業など）と交流し、見直し、活用して“まちづくり”や“ビジネス”を提案していく、そしてその取り組みを、地域で応援し支えていこうというものです。

S B Pは、三重県多気町にある相可高等学校食物調理科が運営する高校生レストラン「まごの店」などを先進事例に、2013年4月に三重県立南伊勢高等学校南勢校舎で最初のS B Pが立ち上がりました。

今、この地域に根ざした取り組みが全国に広がっています。

開催場所

- 三重県伊勢市 皇學館大学
伊勢神宮外宮前
- 三重県多気町 高校生レストラン「まごの店」
三重県立相可高等学校

主催・後援・共催

■ 主催 未来の大人応援プロジェクト実行委員会

■ 共催 文部科学省

■ 後援 内閣府（地方創生推進事務局）、総務省、農林水産省。厚生労働省、経済産業省、観光庁、三重県、三重県教育委員会、伊勢市、多気町、南伊勢町、伊勢商工会議所、皇學館大学

■ 協力 アトビシステムズ(株)、Iメティ精密(株)、(株)赤福、(株)百五銀行、(株)百五銀行総合研究所、(株)プラントネル、(株)ハネッコーポレーション、(株)レオパリス21、ゲーゲル合同会社、公益財団法人修養団、国立大学法人東京学芸大学、辻製油(株)、デンソー機工(株)、ファウエイジャパン、富士ゼロックス三重(株)

- 1日目 2017年8月18日(金) @皇學館大学
 - 13:00 開会式（挨拶・説明）
 - 13:20 講演「デザインの力×地方創生」
講師：武井 史織(アドビシステムズ株式会社)
 - 14:15 ポスターセッション
 - 16:30 ワークショップ
 - ①動画作成（実行委員会）
 - ②デジタルマーケティング（グーグル合同会社）
 - ③マスキングアート（株式会社レオパレス21）
 - 19:00 動画WS投票
 - 19:30 ポスターセッション表彰

- 2日目 2017年8月19日(土) @皇學館大学、
 - 9:00 販売／料理交流
 - 13:00 ミニ講演 講師：村林 新吾（相可高校）
 - 13:50 チャレンジアワード
 - 17:30 講演「新しい時代の新しい生き方・働き方」
角田 陽一郎（バラエティプロデューサー）
 - 18:00 表彰式
 - 18:30 閉会式
 - 19:00 夕食交流会



本フェアは、全国でS B P活動を行う高校生を中心とした団体が、取り組みを通して交流・研鑽を図るため、2013年より毎年1回実施してまいりました。

この取り組みは、当初から全国展開を想定していたため、社会的な必要性、継続性、運営する財源の確保など、この取り組みの意義を問う必要がありました。そこで最初の3年間は、“高校生レストランのまち”として有名な三重県多気町を会場に「全国高校生“S”の交流フェア」と銘打ち、本フェアの前身をスタートさせました。

その結果、想定を超える多くの方々からの支持を受け、昨年「第1回全国高校生S B P交流フェア」として舞台を三重県伊勢市に移し、より多くの地域で“未来の大人たち”を応援する仕組みを作るため新たなスタートを切りました。

そして嬉しいことに、今回から本フェアが文部科学省の共催事業となり、より多くの行政や団体のご後援に加え、企業の皆さまの多大なご協力により、第2回目を無事に開催できました。

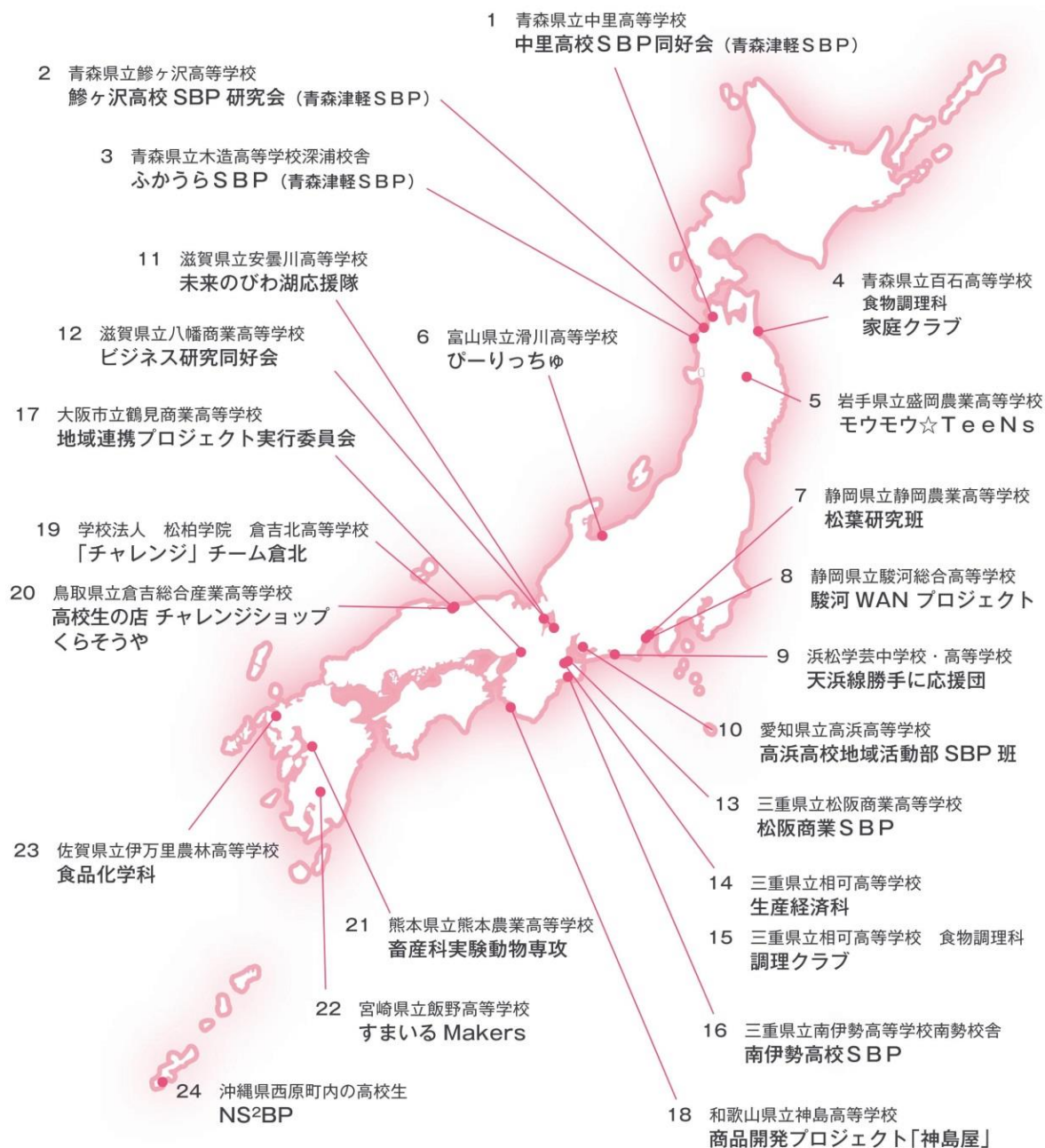
今回のフェアには全国から24団体が参加し、その企画・進行・案内は三重県立相可高校生産経済科・南伊勢高校S B P・松阪商業S B Pが担当し、皇學館大学生がその裏方をサポートするという、学生主体のフェアです。

私たちは、地域を守り育てる“未来の大人である若者たち”を全員で、全力で、温かく育んでいきたいと考えています。

本フェアの開催に当たりご協力、ご尽力を賜りました多くの方々に感謝の意をささげ、今後とも“未来の大人たち”を応援し続けていくことを宣言いたします。

未来の大人応援プロジェクト実行委員会
委員長 岸川政之

参加団体マップ



参加団体一覧

	ブロック	高等学校名	参加するイベント
1	東北	青森県立中里高等学校 中里高校SBP同好会（青森津軽SBP）	SBP チャレンジ部門 出店（物品販売）
2	東北	青森県立鯉ヶ沢高等学校 鯉ヶ沢高校 SBP 研究会（青森津軽SBP）	
3	東北	青森県立木造高等学校深浦校舎 ふかうらSBP（青森津軽SBP）	
4	東北	青森県立百石高等学校 食物調理科 家庭クラブ	料理部門 SBP チャレンジ部門
5	東北	岩手県立盛岡農業高等学校 モウモウ☆TeeNs	SBP チャレンジ部門
6	中部	富山県立滑川高等学校 ぴーりっちゅ	SBP チャレンジ部門 出店（物品販売）
7	中部	静岡県立静岡農業高等学校 松葉研究班	SBP チャレンジ部門
8	中部	静岡県立駿河総合高等学校 駿河 WAN プロジェクト	SBP チャレンジ部門 出店（物品販売）
9	中部	浜松学芸中学校・高等学校 天浜線勝手に応援団	
10	中部	愛知県立高浜高等学校 高浜高校地域活動部 SBP 班	
11	中部	滋賀県立安曇川高等学校 未来のびわ湖応援隊	
12	中部	滋賀県立八幡商業高等学校 ビジネス研究同好会	
13	近畿	三重県立松阪商業高等学校 松阪商業SBP	見学（運営スタッフ）
14	近畿	三重県立相可高等学校 生産経済科	SBP チャレンジ部門 出店（物品販売）
15	近畿	三重県立相可高等学校 食物調理科 調理クラブ	料理部門
16	近畿	三重県立南伊勢高等学校南勢校舎 南伊勢高校SBP	SBP チャレンジ部門 出店（物品販売）
17	近畿	大阪市立鶴見商業高等学校 地域連携プロジェクト実行委員会	出店（物品販売）
18	近畿	和歌山県立神島高等学校 商品開発プロジェクト「神島屋」	SBP チャレンジ部門 出店（物品販売）
19	中国	学校法人 松柏学院 倉吉北高等学校 「チャレンジ」チーム倉北	見学
20	中国	鳥取県立倉吉総合産業高等学校 高校生の店 チャレンジショップ くらそうや	SBP チャレンジ部門 出店（物品販売）
21	九州・沖縄	熊本県立熊本農業高等学校 畜産科実験動物専攻	SBP チャレンジ部門
22	九州・沖縄	宮崎県立飯野高等学校 すまいる Makers	
23	九州・沖縄	佐賀県立伊万里農林高等学校 食品化学科	SBP チャレンジ部門 出店（物品販売）
24	九州・沖縄	沖縄県西原町内の高校生 NS ² BP	SBP チャレンジ部門 出店（物品販売）

内容詳細 1

○ポスターセッション (皇學館大学にて)

チャレンジ部門に参加する18団体(生徒158人)が教室内にブースを設置し、審査員(16人)に対して発表・質疑応答を行った。

4班の審査員に対して、各団体は計4回の質疑応答を行った。他団体の取組みを参考にするべく、生徒や引率者も熱心に傾聴していた。この審査を経て、翌日のチャレンジアワードで発表できる7団体が決められた。



○ワークショップ(WS) (皇學館大学にて)

3種類のWSから、生徒(173人)が選んだWSにそれぞれ参加した。

①動画作成WS

提供：主催者(未来の大人応援プロジェクト実行委員会)

内容：46名の生徒が、発想力・企画力・表現力を養う目的で、初めて出会うメンバー5人程度と協同して、約1分間のPR動画を、限られた時間内で作成した。

完成した動画はWS終了後に全参加者で観賞し、人気投票を行った。WS内に行った中間発表では間に合わなくて発表に至らなかったグループが、途中からやる気スイッチが入って最終の人気投票で1位を取った。



動画はこちら→<https://youtu.be/bZ3PsB4Q8ok>

②Googleマイビジネス等を使ったデジタルマーケティングWS

提供：グーグル合同会社

内容：49名の生徒が、Googleマイビジネスのデモをはじめ、デジタルマーケティングの基礎を学んだ。地域の特色を踏まえた情報発信をテーマに、グループでディスカッション・発表をしてもらい、デジタルを活用した情報発信について考えるきっかけを作った。



③マスキングテープアート制作WS

提供：(株)レオパレス21

協力：アーティスト工藤萌子

内容：78名の生徒が、マスキングテープを活用したアート作品を作る体験を通じて、販売時のPOPづくりや店舗・屋台の装飾等に役立つ手法を学んだ。



○販売 （伊勢神宮外宮前にて）

16団体(生徒129人)が参加し、炎天下の伊勢神宮外宮前の広場にて、ブースを構えて道行く人に向けて物産等を販売した。ポップを持って熱心に呼び込みをするなど積極的に動く生徒もいて、同年代で違いのある行動が良い刺激になった。



○料理交流 （相可高校・まごの店にて）

外宮前での販売の時間と並行して、相可高校食物調理クラブと料理を通じた交流を行った。3団体が参加し、村林先生のもと、現場での動きなどを中心に学んだ。

このあとの昼食では、全員が皇學館の大学生レストランに集合し、村林先生の話聴きながら食事をした。



○アワード （皇學館大学にて）

前日のポスターセッションで選ばれた7団体が10分間のプレゼン発表をして、審査員(16人)からの質疑応答を受けた。審査員からは温かい対応や厳しい内容の質問もあり、活動の意義を再確認するととても良い機会になった。



○角田陽一郎氏 講演

バラエティプロデューサーである角田氏が「新しい時代の新しい生き方・働き方」というテーマで講演をした。アワードが終わって緊張が緩んだ会場の興味を一気に惹きつける話し方と内容で盛り上がった。



○表彰式 特別賞

表彰は、アワード発表の7団体だけでなく、ポスターセッションに参加した団体も含めて行った。

まずは審査員からの特別賞を授与した。

皇學館大学賞：相可高校

ファーウェイ賞：NSBP

アトビ賞：浜松学芸中学校・高校

大西康夫賞：熊本農業高校

赤福賞：伊万里農林高校

ベネッセ賞：静岡農業高校

プロパティ四日市賞：高浜高校

SYD賞：百石高校

Google賞：飯野高校

以21賞：神島高校

百五賞：南伊勢高校

東京学芸大学賞：八幡商業高校

辻製油賞：駿河総合産業高校

角田陽一郎賞：盛岡農業高校



○表彰式 三重県知事賞

表彰は、基本的にランクを付けて評価をするものではないが、優秀な上位2団体だけ選び表彰をした。

受賞団体は、愛知県立高浜高等学校。



○表彰式 文部科学大臣賞

最優秀賞に選ばれたのは静岡県立静岡農業高校だが、時間の都合で表彰前に帰路についた為、急きょ電話での受賞式を行った。



○閉会式

緊張のアワード表彰も終了し、高校生スタッフの委員長が閉会の挨拶をした。これまでの緊迫した気持ちを素直に吐露し、共感を呼んだ。



○夕食交流会 （大学生レストランにて）

相可高校食物調理クラブの生徒が、だしまき玉子の実演を披露。
数多く用意されただしまき玉子だが、すぐになくなった。

この後、歓談・ビンゴゲームを経て、全ての日程が終了した。



○柳原なほ子

為華技術日本株式会社（ファースウェイ・ジャパン） 渉外・広報本部 渉外・CSR部 CSR担当シニアマネージャー

自然のパワーが漲る伊勢の地に全国から高校生が集結。その情熱に引き寄せられるように大人たちも集まって地域の課題を共に考えた大変有意義な2日間でした。情報通信技術で「より"つながった"社会」の実現を目指すファースウェイ。今回ファースウェイ賞を授与させていただいた沖縄県西原町在住の高校生NS2BPのみなさんのように、これからも高校生がみなさんが触媒となって地域をつなぎ課題解決に取り組んでいかれることを期待しています。



○武田数宏

公益社団法人修養団 常務理事 伊勢青少年研修センター所長

第2回全国高校生SBP交流フェアに参加した皆さんは、志(こころざし)を持つ者だけが持つ輝きを放っていました。学校教育の一環では得ることの出来ない体験の機会であったと思います。誰かに教えられたこと、また自分たちで考えたことを計画し、いざ実践するとなるとなかなか出来るものではありません。知っている事と分かる事は違います、さらに理解する事はもっと難しいものです。行動して初めて気づき、立場を変えて考えてみたときに見える世界があるようです。全国の高校生たちとSBP交流フェアを通じて体感吸収したものは、あなたの今後の成長に、きっと役立つものになると信じます。

『出来ないことを悔やむより、出来たことを喜ぼう』さらなる高みに向かって歩いて行ってください。今回審査員として、たくさんの感動の瞬間を共有させて頂けたことは大きな喜びでした。

○荒木康行

株式会社百五総合研究所 代表取締役社長

驚きと感動の2日間、審査委員長として昨年に続き参加させていただきました。高校生の新しい視点や熱い思いは大人たちを動かしています。地域や企業と連携して地域課題を解決していこうとする姿には敬意を表します。またフェア参加者は全国各校の取組を見て更に大きな刺激を受け、そして素敵な交流ができたことでしょう。

今後の取組が楽しみです。大いに期待しています。



○小村俊平

株式会社ベネッセコーポレーション 学校カンパニー 教育イノベーション推進課 課長

高校生SBP交流フェアに参加して、高校生の皆さんが、自分たちで課題を見つけ、社会課題の解決に向けて具体的に実践していることに大変感銘を受けました。

なかでも、多くの取り組みが同世代の仲間だけでなく、大人とも上手に連携していることが素晴らしいと思いました。大学の研究者の力を借りて科学的な裏付けをえたり、地域の企業の技術を組み合わせて商品化する。こうした協働は今までにない何かをつくるためには不可欠です。ぜひ今後も多くの人たちを巻き込みながら、活動を大きく育ててください。皆さんの活動は世界に誇れるものだと思います。



○鉄矢悦朗

東京学芸大学 教育学部 教授

『真剣コメントでした』

各地で少子高齢化、過疎化等が課題となっている状況で、イキイキと主体的に楽しんで活躍する高校生グループや地域チームのリアルを、目の当たりにできたことで、力強い希望を見出すことができました。ありがとうございます。プレゼンテーションを聞きながら、自然と批判的思考ではなく応援的思考になり、私の脳みそはフル回転していました。リアリティーのある熱のこもった作品（活動）は、観る者もコメントも熱くしますね。



○世古晶大

皇學館大学現代日本社会学部 3年

今回、第2回全国高校生SBP交流フェアに参加させていただき、ありがとうございました。

高校生のユニークな取り組みを最前列で感じることは、私にとってとても貴重な経験で、そして非常に光栄なことでもありました。この交流フェアは今後も続いて行きますが、高校生の皆さんにはアワードで良い成績を取ることを目的とするのではなく、交流により他団体の取り組みを知り自分たちの活動に活かして欲しいと思います。未来の大人たちの活躍を楽しみにしています。



○工藤萌子

アーティスト

SBP参加の素敵な高校生みなさまとご一緒に、大作を完成することができましたこと、今の瞬間を生きること、そして交差する世代と土地と光とを全身で感じる事が出来ましたこと大変嬉しく幸せな気持ちでいっぱいです。これからも皆様が目をきらきらさせてご活躍されることにワクワクが止まらなく、また地球のどこかで一緒に作品を制作できることを心待ちにしております。またお会いいたしましょう！！



○多田祐美

文部科学省生涯学習政策局生涯学習官

SBPに取り組む高校生の皆さんへ

第2回全国高校生SBP交流フェアに参加させていただきありがとうございました。

何か新しいことを始めるときに「できないこと」の理由を述べる大人が多い中、皆さんは「できること」は何かに知恵を絞り実践しており、そんな姿に私は頼もしさを感じました。

新しいことを始めるときに失敗はつきものですが、失敗は成功のもとです。地域の方や企業を巻き込みながら、地域の特色を生かした事業につなげて、「極」を目指してください。

我々大人は、今後も未来の大人たちを応援し続けます！



○武井史織

アドビ システムズ 株式会社 Adobe Creative Cloudコミュニティ
マネジャー

今回のSBPには、登壇者＋審査員として参加させて頂きました。お話を頂いた当初は、「未来いっぱい的高校生に向けてグローバルの視点から何か伝えられれば」と考えお受けしましたが、本気で取り組む参加学生を前に、逆に教えてもらったことの方が多かったような気がしています。こうした活動を通して、『クリエイティブの力』を理解する社会基盤を強化できることは、国の未来を左右する本当に価値のあることだと思います。この素晴らしい活動が更に広がるよう、引き続き応援しています！



○徳田嘉美

三重県教育委員会 高校教育課長 （未来の大人応援プロジェクト
実行委員会）

当日参加された18校それぞれの取り組みは、高校生が主体となり、まちづくりやビジネスにつなげていくために、試行錯誤やアイデアを出し合うなどして作り上げられてきた素晴らしいものばかりで、その取り組みに感動しました。

今回のSBPチャレンジワードをきっかけに、各高校ではそれぞれの取り組みに自信を持ち地域とともに一層活躍されること、そして多くの高校にSBPの取り組みが広まっていくことを期待します。



○新田均

皇學館大学現代日本社会学部 学部長 （未来の大人応援プロジェクト実行委員会）

全国高校生SBPフェアに集った18団体の高校生の皆さんお疲れ様でした。皆さんの発表を見て、この取り組みこそ「深く対話的で主体的な学び」を実現できる教育プログラムだと確信しました。皇學館大学は、地域の核、地(知)の拠点として、地域活性化に貢献しようとする志を持った高校生を、これからも支援し続け、大学に進学した後も成長しつづけられるような仕組みを構築していきます。



○杉原佳亮

グーグル合同会社 執行役員 公共政策・政府渉外担当

全国の高校生が地域の問題解決のためにクリエイティビティと自主性をもって、バラエティ豊かな取組みを発表されていた様子に大変感銘しました。高校生たちの熱気もさることながら、その活動を支える先生方、自治体、支援企業の方々等、周りの大人たちの支えにも感服しました。今後もこの活動がより大きく、より深く広がることを願うとともに、デジタルを通じて私たちも地域活性化の一助となれるよう努力を続けたいと思います



○前田恵美

グーグル合同会社 公共政策部 公共政策カウンセラー

ポスターセッションに参加しましたが、高校生たちが地域の問題の洗い出し、解決するためのアイデア出し、企業との交渉と支援の取付け等を全て自分たちで行い、各チームがその取組を工夫を凝らして分かりやすく発表されていて、とても関心しました。デジタルツールを用いた取組みをされていたチームもありましたが、今回のイベントに参加した高校生からデジタルの力を使ったイノベーションが起こり、地域がより活性化することを期待しています。

○柘植英雄

株式会社赤福 執行役員

今の高校生は凄い！それが私の率直な感想です。皆さんの瑞々しい感性と、たくましい行動力に眩しさを感じます。そして、地元愛が素晴らしい。当たり前モノやコトが実は地域の宝で、磨けば光るものだった！それに気づいた喜びはどれ程だったのでしょうか。ビジネスにするためにはどうすればよいか、知恵を出し合い仲間同士で試行錯誤した濃密な時間。今回の経験を将来に役立て、さらに羽ばたく皆さんに心からエールを送ります。

○瀧澤慎一

辻製油株式会社 総務部 課長

地域社会が高校生の活動に求める期待値の大きさ、何よりも高校生のひたむきさに感銘を受け、協働しながら地域を発展していこうとする熱い思いが伝わってきました。高校生の活動は慣例にとらわれることなく、地域の問題と矛盾を客観的にとらえ、どうすればいいか、あるべき地域の姿を考え、これまでにない特異な視点をもった発想で、独創的な地域社会の仕組みづくりや商品開発など、先駆的な活動によって地域に新しい風を起こしています。

○角田陽一郎

バラエティプロデューサー（元TBS番組プロデューサー）

情報革命がどんどん進んでる今、これからの時代を生きる若い世代の皆さんが創造する未来とは、今までの既存のビジネスやシステムや慣習を超えて、皆さんが"やりたいこと"をどう想像するかにかかっています！そしてそれが日本の、ひいては世界の新しい未来のカタチになるのです。それが感じられるSBP交流フェアでした！僕はとてもワクワクしました！ありがとうございました。



○大西康夫

東京大学大学院農学生命科学研究科 教授

SBP参加の高校生の皆さんには、大きなエネルギーを感じました。液晶プロジェクターを使ったプレゼンの上手さも印象的でした。審査という点では、授業としての取組みと自主的な取組みの違いなど難しい点もありましたが、高校生の皆さんが地域を意識した活動に意義を見出している点は大変頼もしく思いました。将来このイベントを振り返った時、「あれが契機となって今の自分があるのかもしれない。」と思えるような人が一人でも多くいてくれると嬉しいです。



○黒田美和

株式会社プラトンホテル 専務取締役 支配人

SBP交流フェアに関わらせていただいたことで、高校生の皆さんの地域課題に対する関心の高さ、またそれらを解決しようとするひたむきな姿勢を垣間見ることができました。

学校・地域・企業の連携が、これからの学校教育に大切なことだと実感しております。

少子高齢化・労働人口減少が進む時代だからこそ、若き彼らの活躍できる機会が増え、自信と成長につながってもらえればと思います。



○横山雅志

株式会社レオパレス21 賃貸事業部 学校法人営業部 副部長

SBP交流フェアに審査員として参加させて頂き、高校生自らが地域資源、課題に向き合いビジネスの手法を用いて地域、人材づくりに関わる重要性や当事者目線での考え、持続可能な取組みが教育現場にはあり、企業にとってもより良い社会をつくるうえでは共創していく、非常に大事だと感じました。

グローバル社会のなかで高校生の皆様が自らの自己理解・分析、地域に目を向けて自分なら何ができるかにチャレンジしSBPの取組みを全国に広げていけるとすべてがハッピーになると感じます。

